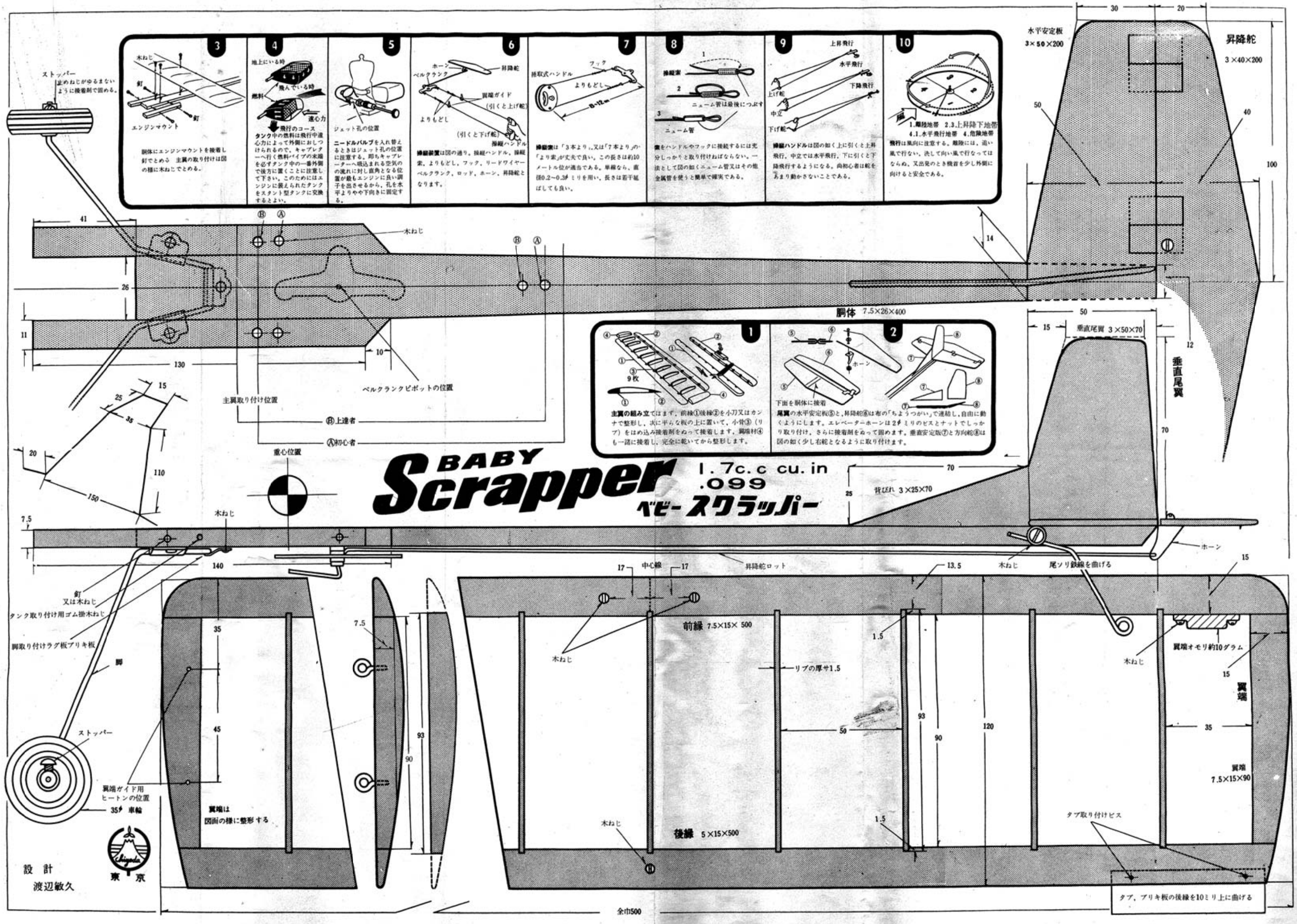
BABY Scrapper

1.7c.c cu.in .099

ベビースクラッパー


ストッパー
止めねじがゆるまないように接着剤で固める。
木ねじ
釘
エンジンマウント
地上にいる時
飛んでいる時
燃料
遠心力
飛行のコース
ジェット孔の位置
ホーン
昇降舵
ベルクランク
翼端ガイド
(引くと上げ舵)
よりもどし
(引くと下げ舵)
操縦ハンドル
操取式ハンドル
フック
よりもどし
8~12㎝
1
操縦索
2
ニューム管は最後につぶす
3
ニューム管
上昇飛行
水平飛行
下降飛行
上げ舵
中立
下げ舵
風
1.離陸地帯　2.3.上昇降下地帯
4.1.水平飛行地帯　4.危険地帯
水平安定板 3×50×200
昇降舵 3×40×200
30
20
50
40
100
41
26
11
130
10
14
12
Ⓑ Ⓐ
ベルクランクピボットの位置
主翼取り付け位置
Ⓑ上達者
Ⓐ初心者
胴体 7.5×26×400
④ ② ① ③ 9枚
⑤ ⑥ ホーン ⑦ ⑧
下面を胴体に接着
50
15
垂直尾翼 3×50×70
垂直尾翼
70
25
背びれ 3×25×70
15
25
35
20
110
150
重心位置
7.5
140
木ねじ
釘
又は木ねじ
タンク取り付け用ゴム掛木ねじ
脚取り付けラグ板ブリキ板
脚
ストッパー
翼端ガイド用
ヒートンの位置
35ϕ 車輪
昇降舵ロット
ホーン
尾ソリ鉄線を曲げる
17
中心線
17
13.5
15
35
45
7.5
93
90
翼端は
図面の様に整形する
前縁 7.5×15× 500
リブの厚サ1.5
1.5
50
93
90
120
翼端オモリ約10グラム
15
翼端
35
翼端
7.5×15×90
後縁 5×15×500
タブ取り付けビス
タブ、ブリキ板の後縁を10ミリ上に曲げる
全巾500
東京

設計
渡辺敏久

1

主翼の組み立てはまず、前縁①後縁②を小刀又はカンナで整形し、次に平らな板の上に置いて、小骨③（リブ）をはめ込み接着剤をぬって接着します。翼端材④も一諸に接着し、完全に乾いてから整形します。

2

尾翼の水平安定板⑤と，昇降舵⑥は布の「ちょうつがい」で連結し，自由に動くようにします。エレベーターホーンは2ϕミリのビスとナットでしっかり取り付け，さらに接着剤をぬって固めます。垂直安定版⑦と方向舵⑧は図の如く少し右舵となるように取り付けます。

3

胴体にエンジンマウントを接着し釘でとめる　主翼の取り付けは図の様に木ねじでとめる。

4

タンク中の燃料は飛行中遠心力によって外側におしつけられるので、キャブレターへ行く燃料パイプの末端を必ずタンク中の一番外側で後方に置くことに注意して下さい。このためにはエンジンに備えられたタンクをスタント型タンクに交換するとよい。

5

ニードルバルブを入れ替えるときはジェット孔の位置に注意する。即ちキャブレーターへ吸込まれる空気の流れに対し直角となる位置が最もエンジンに良い調子を出させるから、孔を水平よりやや下向きに固定する。

6

操縦装置は図の通り。操縦ハンドル、操縦索、よりもどし、フック、リードワイヤー ベルクランク、ロッド、ホーン、昇降舵となります。

7

操縦索は「3本より」又は「7本より」の「より索」が丈夫で良い。この長さは約10メートル位が適当である。単線なら、直径0.2~0.3ϕミリを用い、長さは若干延ばしても良い。

8

索をハンドルやフックに接続するには充分しっかりと取り付けねばならない。一法として図の如くニューム管又はその他金属管を使うと簡単で確実である。

9

操縦ハンドルは図の如く上に引くと上昇飛行、中立では水平飛行、下に引くと下降飛行するようになる。尚初心者は舵をあまり動かさないことである。

10

飛行は風向に注意する。離陸には、追い風で行ない、決して向い風で行なってはならぬ。又出発のとき機首を少し外側に向けると安全である。